

# 前高パンフレット改造計画

～わかりやすいパンフレットをめざして～

群馬県立前橋高等学校 文系6班

## 1. 研究背景

- 群馬県立高校の倍率が減少
- 前高の志望者を増加させたい
- ↓
- 前橋市に人が増え、活性化
- 地方創生につながる
- 前高の魅力発信を進めたい
- ↓
- 従来のパンフレットを改善して魅力発信

## 2. 現状

パンフレットの課題点

- 文字が密集して見づらい
- ページ数が多い
- 構成が見づらい
- 生徒が感じている魅力との乖離

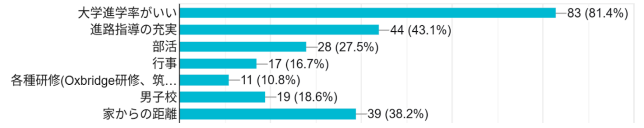


## 3. 研究方法

- 前高生の声を盛り込みたい
- ↓
- 二年生を対象にアンケート
- ↓
- 構成を考えて提案
- ↓
- 来年度のものに反映

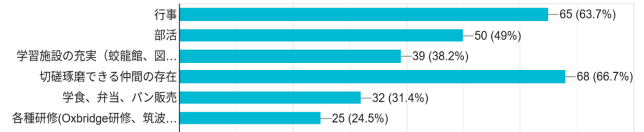
## 4. 結果

### 1. あなたが前高を選んだ決め手は何ですか。 ※複数回答可 102件の回答



①前高を選んだ決め手の質問では、大学進学率に81%、進路指導に43%の票が入り多かった

2.入学して感じた前高の魅力は何ですか。(中学生に教えた方がいいポイント) ※複数回答可  
102件の回答



②入学してから感じた前高の魅力の質問では、行事に63%、仲間の存在に66%の票が入り多かった

## 5. 考察

＜パンフレット修正案＞

- ①多くの関心を集めている進路のページを前半に移動し、学習の次のページに配置することで学習と進路を関連付けた
- ②行事については、ページ数を拡大し生徒からの人気が高かったものを中心に多くの行事についての情報を記載した



## 6. 今後の展望、まとめ

- 前高生、中学生、保護者の方の視点の違いに着目して活動できた
- パンフレットが完成したら、従来のものと比べより当事者目線になる
- 行動が遅くなった
- アンケートのデータを活かし切れなかった
- 今回の反省を今後研究活動をする際に忘れないようにしたい。

## 7. 参考文献、調査協力

前高パンフレット2025ver、令和七年度群馬県立前橋高校二年生

# 焼きまんじゅう

## ～群馬のソウルフードの復活～

群馬県立前橋高等学校

文系7班

### －研究背景－

現在日本では、食の欧米化に伴って地域の伝統的な料理、またソウルフードなどを食べる機会が少なくなっており、群馬県の焼きまんじゅうも例外ではないと考えた。そこで、自分たちが積極的に地域の料理の発信をすることでより多くの人に群馬県のソウルフードの良さを知ってもらいたいと考えた。

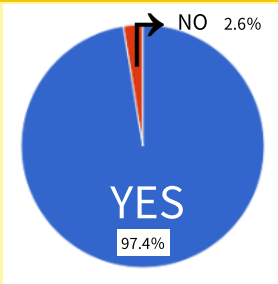
### －仮説－

若年層の間では特に焼きまんじゅうを食べる機会が減っている可能性がある。

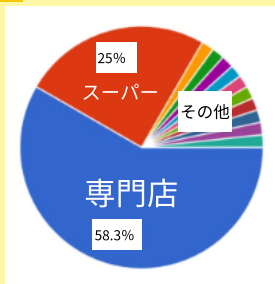
### －調査方法－

- ・実際に焼きまんじゅうの認知度を調査する  
→前高内でアンケートを実施
- ・実施したアンケートを元に焼きまんじゅうを販売

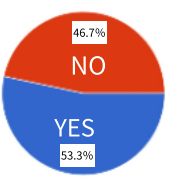
### －アンケートの結果－ 回答者 前高生徒 78人



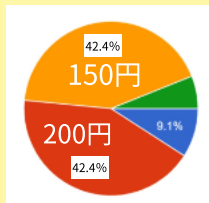
ソウルフードとして焼きまんじゅうを知っているか



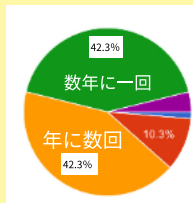
どこで焼きまんじゅうを購入するか



学校で販売したら買いたいか



いくらであれば購入したいか



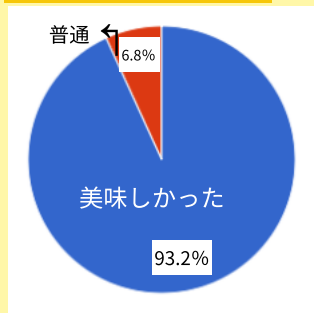
どれくらいの頻度で食べるか

### －アンケートから考察－

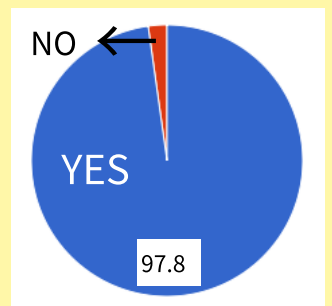
焼きまんじゅうを群馬のソウルフードとして認識している人が多い一方、専門店で買う人が過半数のため、焼きまんじゅうを手に取りにくく、食べる機会が少ないことが分かった。そのため、焼きまんじゅうを食べてもらうきっかけを設ければ、より多くの人に焼きまんじゅうの魅力を伝えることができるのではないかと考えた。

### －販売結果－

1食290円 71食販売



美味しかったか



また購入したいか

### －販売の様子－



### －まとめと今後の展望－

今回の探究活動を通して、焼きまんじゅうは群馬県のソウルフードとしてよく認知されているが、実際にはあまり食されていない現状であると考えた。また実際に販売を行ったことで、多くの人が焼きまんじゅうを美味しいと感じていたことから、購入する機会を設けることでソウルフードを守ることに貢献できると考えた。今後は、定期的に焼きまんじゅうを前高で販売したり、ソウルフードに関連したイベントに積極的にかかわりたいと思う。

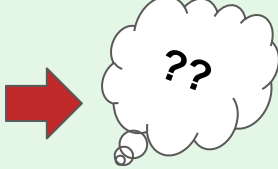
# 前高パーク ～小さな公園からの地方創生～

群馬県立前橋高等学校 文系8班

## 1. 研究動機

前高の隣にある下沖町公園は、立地や環境の悪さから、  
利用者数がとても少ない、、、

利用者を増やして活性化したい!!!



## 4. 研究方法

- ① アンケート
- ② 公園管理事務所の方との話し合い
- ③ 実際に環境整備を行う
- ④ イベント開催

## 2. 先行研究

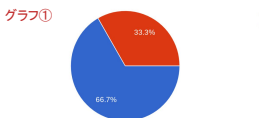
公園の目的⇨人々のレクリエーションの空間、良好な都市景観の形成など 国土交通省HPより)

[https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_010725.html](https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_010725.html)

## 5. 研究結果

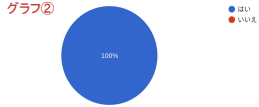
調査の結果( **グラフ①** )より、ベシヤを利用している近隣住民の中には、読書や学習などを快適に行うことのできる公園を必要とする声が多く、環境整備を行うことが、公園の利用者を増やすための一つの手段であることを再確認することができた。  
アンケートに協力してくれた利用者様は、前高生徒が開催するイベントは積極的に参加したいと答えてくれた **グラフ②**  
除草作業等、環境整備を行うことができた。  
花見イベントを行えなかった。→凧揚げや焼き芋など冬のイベントを企画した。  
また、前橋市の公園愛護会報にこれまでの活動内容や今後の活動予定、目標について掲載した。

もし下沖町公園に快適に読書や学習ができる環境が整備されたら利用しますか？



環境整備の様子

もし下沖町公園で、前高生が主催するイベントが開催されたら参加してみたいと思いませんか？



10月の公園

## 6. イベントの企画案

近所の認定こども園、学童クラブ等と交流できるような企画案: 凧揚げ、花見会、焼き芋大会

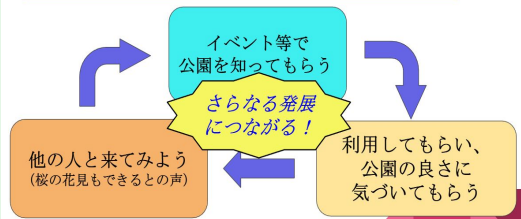
### 企画の目的

地域の人と交流することによって公園の存在を認知してもらう。また、公園の活用可能性を感じてもらい継続的に利用してもらうきっかけにする

## 3. 仮説

ベシヤモールが近くにあり、子連れの利用者に **買い物帰りに利用してもらう** ことによって公園に活気が生まれるのではないかと。  
また、環境整備により利用者が増えると考えられるので、まずは環境の整備を行うとよいのではないかと。  
また、公園の活気を生むためには **存在を認知してもらう** 必要がある。  
認知を広げるためには前高生が中心となったイベントを開催し参加してもらうことが最善だと考えた。

利用者を増やしてリピートしてもらうために、、、



## 7. 考察

・イベントの告知や、事務手続き、具体的な方針を決める前に、公園の整備にとりかかってしまい、時間が不足してしまったため、時間のかかる告知や方針を先に決めてしまえばイベントを実行できたかもしれない。

## 8. 今後の展望

イベントを開催することができなかったのも、後継者を探して、イベントの開催等、ステップアップしたことをしてほしい。これ以外にも、公園の管理は、継続的に行われることが望ましいと考えるので、継続して管理、環境整備を行う体制を考える必要がある。(最終的には愛護会を設立することで、継続的な管理、支援を受けられる)

参考文献 協力

株式会社ベシヤ様 前橋市役所公園管理事務所様

# 前高パーク「映え」化計画！



～ ベンチ設置による公園の活性化 ～



群馬県立前橋高等学校 文系9班

## 研究背景

- これまで前高生は、下沖町公園(前高パーク)の活用方法について考えてきた
- 公園を活性化させるため、人を呼び込むシンボルとなるものを作ろうと考えた
- シンボルを検討する中で、SDGsに配慮することを重視した
- 学校や建築資材の廃材を再利用することを決めた
- 前高パークのシンボルとして、カラフルで可愛いベンチを作ることにした



## 仮説

### 課題

公園の前を通行する人は多いが、風景の一部として見過ごされており、立ち寄るきっかけを作ることが必要である。

### 仮説

利用者の目を引く印象的な外見のベンチを設置すれば、視覚的な興味から足を止めるという行動が生まれる。

→腰をかけたくなる心理を働かせ、滞在時間が自然と延長させる

→公園全体に賑わいのある風景を創出させることができるはずだろう

## 工夫点

### 1.廃材の利用



廃材 × 学校の椅子 = コスト0円！

本来はゴミになるはずだった素材を活用し、環境に優しく、「世界に一つのベンチ」を作成。ペンキは前橋市の公園管理事務所から。他は自分たちの家で余ったものを使用。

### 2.安全性



座る人へのおもいやり設計！

お子様からお年寄りまで、誰もが安全に座れるよう、クギ、角、ささくれなどの危険要素を一つ残らず解消。

## デザイン

- 1.目を惹くカラフルな虹色デザイン
- 2.中央のハートを挟んで撮れるペア撮影スポット
- 3.背中に翼が広がる一人用撮影スポット
- 4.SNSで話題になる「映える」設計



※AIで作成した使用イメージ画像です

## 実践結果&改善

### 【現状と課題】

調査の結果、使用された痕跡があったが、利用者は実際に確認されず、認知度の不足が課題として浮き彫りになった。

また、ベンチの周りのゴミの問題も明らかになった。



【今後の対策】



**SNS活用**：Instagramでの利用シーンの投稿



**地域連携**：近隣店舗（ベイシア等）へのPRポスター設置などの取り組みを通じ、ベンチの存在を広く発信



**景観改善**：ベンチの周りに花を設置して、ゴミを捨てにくい環境を整備する。